



## 夫の病気を機に 妙光寺との出会い

新潟市西区

小野本美奈子さん(68歳)

「Xデーを考えなきゃいけないよ」美奈子さんがお墓を探したきっかけは、妹に言われた一言だった。夫の清さんが脳幹出血で突然倒れ、回復の見込みはないと覚悟した時期だ。悩んでいたところに、友人が院首の著書『ひとりひとりの墓』を貸してくれた。清さんは昔から、家は継がなくても良いという考えの人だった。安穩廟のシステムに共感してくれるだろうと思い契約を決めた。「もしもの時はここ」と決めたら気持ちがとても楽になったと笑顔で語る。

三流亭楽々さんの落語の会をはじめ、浄土講座にも何度か参加している。長男は遺跡関係の仕事をしており、角田浜妙光寺山古墳の発掘にも関わっていた。不思議な縁を感じたという。清さんは2年間の闘病を経て令和3年2月に亡くなった。

遺体は京住院に運んでいただき、息子や妹と故人を偲ぶ時間を過ごした後で、お通夜・葬儀も行った。京住院はとても使いやすい設計になっていることを宿泊してみて実感したという。(2ページに続く)

# 妙たえの光ひかり

復刊128号



## 行事案内



### 第13回浄土講座

7月20日(土)、14時 参加費500円(予約制)

『誰もが安心、後見制度のしくみ』

講師:笠原友也さん(一般社団法人・生支縁 代表理事)

須貝秀昭さん(NPO法人・身寄りなし問題研究会 代表)

### お盆参り

『施餓鬼法要』

8月1日(土) 11時半～12時10分(墓経 6:00～11:00)

※法要前の午前6時～11時まで墓地にお上人さんが待機しています。墓前でのお経を希望される方はお声がけください。

『お盆市』

8月11日(日)(山の日)午前9時～午後3時(墓経 8:00～12:00)

院庭や参道に地域の方々の出店やキッチンカーが並びます。

※午前8時～12時まで墓地にお上人さんが待機しています。墓前でのお経を希望される方はお声がけください。



### 新盆法要

8月11日(日)

檀徒で今年新盆にあたる精霊のお位牌を安置し、ご供養します。該当する方にはお知らせを同封しましたので、お申込みの上ご参列ください。

※檀徒以外の新盆供養もお受けします。ご希望の方はお問合せ下さい。



### 墓地合同法要

8月13日(火) 午後3時～4時(安穩廟あずま屋)

妙光寺墓地に眠るすべての精霊をご供養するお経をあげます。どなたでもご参列ください。

※手不足で個別の墓経はお受けできません。ご了承ください。

### お盆棚経

8月2日～12日

ご自宅へのお仏壇参りです。例年通り日時お知らせのうえお伺いします。

### 岩屋七面様祭礼

8月19日(月)

午前10時、本堂にて法要とお加持。岩屋に移動して法要。お昼にお赤飯のご供養があります。ご自由にお参りください。



### 万灯のあかり—妙光寺の送り盆

梶原徹也さん奉納演奏会 8月24日(土)

詳細は別紙チラシをご覧ください。

【献灯のご案内】

1基2千円 メッセージを添えてお申し込みください。



### 秋季彼岸会法要

9月22日(日)・祝

午前10時30分 安穩廟法要

11時 本堂にて彼岸会中日法要

12時 おとし

午後 1時 住職法話

予約不要です。どなたでもお参り下さい。

### 『身延山久遠寺』団体参拝旅行

9月28日(土)～29日(日) 参加費28,000円(申込締切 9月10日)

大型バスで行く総本山への旅です。お誘い合わせご参加ください。

### 任意後見相談会

8月11日 お盆市、9月22日 秋季彼岸会で、一般社団法人『生支縁』による相談コーナーを設けます。お気軽にご相談ください。

### 月例ボランティア

毎月15日ですが、7月、8月は日にちが変わります

7月29日(日)、8月8日(土)、9月15日(日) 午前9時～12時 午後1時～3時

7、8月はお盆の準備、9月は清掃作業等です。たくさんの皆様のご協力をお願い致します。

### 月例信行会

(毎月第1水曜日 午前9時半～11時半 始まりの時間がゆっくりになりました)

7月3日(水)・9月4日(水)・10月2日(水)

※8月はお休みです。

お参り、法話、作務、コーヒータイム等があり、交流の輪も広がります。

●参加費 お志を各自賽銭箱にお願いします  
予約申込み不用。当日直接お寺へお越し下さい。

### あとがき

6月1日「開山会」では午前は江戸時代から続く荘厳な法要が行われ、午後のトークでは内門前に長蛇の列ができ、「最後尾」の札を掲げるまでになりました。今後の人生を真剣に悩む相談が寄せられ、笑いと涙の熱い午後でした。伝統行事と熱い今が交差する境内の1日…。夏から秋にも行事がいろいろあります。気軽にお寺においでください。(新倉理恵子)



新潟市西区 小野本美奈子さん

清さんの思い出

山口県出身の清さんとは、大学の吹奏楽倶楽部で出会った。第一印象は「変なセンパイ」だった。清さんは、大学紛争の世代。高校卒業後ふらふらと在学の9年を経て、公務員試験を受けて労働基準監督官になった。民間ではこのような履歴の人をどこも採用しなかったからだ。

結婚して子どもが生まれてからは、当時の男性としては珍しく、家事や子育てにも協力的だった。洗濯物を干している姿を美奈子さんの母が目撃し「近所の人にみばがわるい」と言われたりもしたが、本人はマイペースでちつとも気にしなかった。息子のお嫁さんには、仕事を続けるのは大事なことでと話していたようだ。

清さんの母親は移民としてハワイで15歳頃まで育ったと聞いている。様々な人種の人と交流があったためか、当時の女性としては広い視野のある人だった。美奈子さんが子どもに「おばあちゃんに歌を聞いてもらった」と言ったとき「子ども

もを大人の見世物にしてはいけない、大人に気に入られようとする子どもにしてはいけない」ととがめられたこともある。子どもでも一個の独立した人格という考えを持っていた。清さんの価値観にも影響を与えているのだろう。

そんな清さんは定年を目前にして早期退職した。組織のありかたに疑問があったようだ。公務員として若い頃は薄給で働き、ようやくお給料があがった一番良い時期だったのに……。ただその後は家事を引き受けてくれたので、美奈子さんは仕事に打ち込むことができた。倒れるまでの約10年、家事全般を引き受けてくれたことには感謝している。インスタント食品が嫌いで、栄養を考えた食事を作ってくれた。「あまりおいしくない時もあつたけど」と美奈子さんは笑う。また、障害のある孫をとてにも気にかけていて、彼女の食事の世話や、保育園の送迎の手伝いが生きがいになっていたようだ。

社会保険労務士として

美奈子さん自身は、現役の社会

保険労務士だ。昨年の開山会では、無料相談コーナーの相談員を務めていただいた。

この仕事を選んだのは成り行きだったそうだ。当時、4大卒の女性には就職先が限られていた。男女雇用機会均等法ができる前の時代だ。夫の転勤で群馬県にいたころ、子育てをしながら「履歴書にかけて就職に役立つ資格」として夫の勧めもありチャレンジした。子どもが寝ている時間にテキストを開き勉強して合格した。サポートしてくれた清さんとても喜んでくれた。勤務経験を経て独立したのは45歳の時だ。自分の裁量で出来る仕事で人と関わる仕事はやりがいを感じられる。

「私の若いころは優秀な女性も高校卒業後は地元の銀行に就職することも多く、進学先も短大が多かった。同じように高校を卒業した男性は同じ銀行でいわゆるエリートになっていた。就職の入り口で男女に違いがあったことを知らない若い方たちも少なくない。今は当たり前だけど昔はそうじゃなかった、過去があるから現

在の様々な制度があることも仕事を通じて若い人に伝えていきたい」と語る。

そしてこれから

社労士の仕事では、労災・ハラスメント・うつ病など様々な相談を受ける。時代の変化と共に法改正も頻繁にあり、勉強しなければいけないことも多い。そろそろ仕事もバトンを渡すことを考える年齢になったが、顧客は法人が中心で長い時間をともにしてきたお客様もあり、簡単には辞められない。今は友人と、社会保険労務士法人を立ち上げて1年になる。いずれは綺麗にバトンタッチしたいが、相談を受ける限りは仕事を続けたいと考えている。

「今は一人暮らしなので仕事があることはありがたいんです」と美奈子さんは笑顔で語る。「職場でのトラブル相談や年金のことなど、社労士としての知識や経験がお寺のみなさんの役に立つことがあれば、いつでも相談してください。」頼もしい言葉もいただいた。

(住職記)

安 穏

小川良恵

初冬の別れと初夏の出会い

猫の三重子

皆様にはお知らせしていませんでしたが、飼っている猫の三重子が昨年11月に息を引き取りました。まだ3歳にも満たない子でした。

1歳を過ぎたころから、片足を引きずるような仕草があり、精密検査を受けたところ、骨の癌だと診断されました。「断脚すれば余命は伸びるが再発もありえる」と言われ、投薬治療に専念することになりました。自宅で注射をうち、水分補給をすることもありました。

昨年2月には寝たきり状態となり、獣医さんから春まで持たないだろうと宣告されながらも、酷暑の夏を乗り切り、秋を穏やかに過ごし、冬近くまで生きてくれました。7月のお盆で私が1週間、東京出張に行っている間は、世話を頼んだ叔母から「良恵のことを探しているのか、立ち上がった廊下に歩いていったよ」とメールが届くなど、とても一生懸命に生きて



くれた子でした。

母の病床にも寄り添って

元々は境内をウロウロしていた野良猫で、三重塔の前で捕まえたので三重子と名付けました。母なぎさの病床にも寄り添ってくれ、どれほど慰めになったことかとも今でも思います。人生(猫生)の半分を寝たきり状態で過ごしたため、皆さんに遊んでいただく機会もほとんどありませんでしたが、「三重子ちゃん、どうしてますか?」と気にかけて下さった皆様に、感謝申し上げます。

今回の「安穏」は、お通夜の日の喪主挨拶のようにになりましたが、こうして書いて皆様に聞いて

いただくことで、気持ちの整理も出来ました。

千代丸がやって来ました

さて、その後、「院首さんとの2人暮らしも、癒しがないなあ」と冗談交じりに話していたところ、春の終わりに新しい出会いがありました。檀徒さんが「友達の友達の家で子猫生まれたから貰ってきてやるわ。一番イキがいいのを選んでやるから!雄雌どっちでもいいだろう?」と一匹の子猫を連れてきてくれたのです。クリーム色のトラ柄をした雄猫です。来た初日から、私にくっついて寝てくれるような、人間好きの子です。名前は千代丸(ちよまる)にしました。千代に八千代に長生きするように、との願いを込めました。

三重子に引き続いて可愛がっていただければと思います。お参りの際に、お昼寝中でなければ会っていただけです。よろしくお願いいたします。





## 法要

7人のお稚児さんと当番役員、角田浜檀徒の皆さんが出仕して、山門での奉迎法要の後、雅楽を先頭に境内を練り歩き本堂で開山会法要を厳かに営みました。



# 寺のうごき



かいさんえ  
◆開山会◆

6月1日(土)

快晴に恵まれ、小さな子から高齢者まで、たくさんの人で賑わいました。



## 境内の賑わい

地元『越王太鼓』の演奏でオープニング。境内には仏具店、出張写真館、飴細工、障がい者施設の販売、こどもの遊びコーナー等々とともに初めてのキッチンカーも出店しました。新緑の中で、恒例の妙光寺お茶クラブによるお茶席、蓮の花作り体験も人気を博しました。また「任意後見無料相談コーナー」にも多くの相談がありました。



## トークイベント

午後の上野千鶴子東京大学名誉教授×遠藤麻理ラジオパーソティー×小川英爾院首の「お悩み相談トーク」は、院庭会場ぎしりの参加者で大盛況でした。笑いがあふれる楽しいトークの最後は、良恵住職から「何かあったら妙光寺にご相談ください」とご挨拶が締めになりました。



## 昼食の精進カレー

当番による手作り精進カレーが振る舞われ、大好評でした。





# 住み慣れた家で逝く

——廣澤利幸先生——

3月20日、お彼岸法要の午後、浄土講座で

新潟市の医師・廣澤利幸先生からお話をうかがいました。

講堂には40名ほどの参加者が集い、前のめりで耳を傾けました。

お話の要旨を短くまとめておとどけます。

## 最期の時をどこで迎えたいか

はじめに新潟市が過去に行った2つの調査を紹介します。まず「あなたまたはご家族が脳卒中やガンになったらどこで療養したいですか？」という質問です。1位は「介護施設」33%、「自宅」は2位で26%でした。次に「あなた自身が脳卒中やガンになったらどこで療養したいですか？」という質問では、今度は「自宅」が1位で46%でした。自分は最期まで自宅で療養したいけど、家族の介護はとっても無理という意見でした。全国調査も同じ傾向です。すると自宅で療養するのに問題

となるのは「介護」です。さて、最期まで自宅で、という希望をかなえることはできるのでしょうか。

## 在宅医療とは？

「在宅医療」とは、通院できなくなったら自宅に向いて行いう医療のことです。これには「往診」と「訪問診療」があります。「往診」は「急に具合が悪くなった時に医者呼ぶこと」で、きつと皆さんのイメージはこちらだと思えます。それに対して「訪問診療」とは「具合が悪くならないように前もって予定を立てて行いう診療」のことです。患者さんの具合が悪くならないように、先回り

をして苦痛を取り除く診療をします。

## ひとり暮らしの最期に寄り添う

さて「訪問診療」の目的は、患者さんが自宅で穏やかに過ごせるように最期まで寄り添うことなので、「看取り」もします。

数年前に私が見送った87歳の女性についてお伝えします。ある日「おしっこに血が混じっている」と受診されました。近くの泌尿器科に紹介し、そこから病院に紹介され、膀胱がんと診断されました。その方は一人暮らしで身寄りがありませんでした。手術が終わって退院して翌月受診されると、「全部



廣澤利幸先生  
1960年、「しもまち」(新潟市中央区古町)生まれ。新潟大学医学部卒業後、新潟県民医連下越病院(秋葉区)にて初期研修。以降国内各地での研修を経て、民医連坂井輪診療所と舟江病院に勤務。2006年ひろさわ内科医院(中央区)を開業。妙光寺境内に魅了され安穩檀徒に。

取れたつて」と嬉しそうに話してくれました。ところが数か月後にはまた血尿が出て再発。再手術しました。そして「今度は放射線もやるんだつて。先生、放射線って何だね？ それで治るんだかね。」不安な様子で問いかけます。冬が近づくと微熱と吐き気が続きました。「なんか変だ。」いつしか口数が少なくなりました。

年が明けると病院から紹介状をもらつて受診されました。「骨に転移している。治療はないので今後はそちらでお願いしたい」と。彼女は「もう来なくていいと言われた」と、がっかりしていました。「先生、もう入院は

嫌だ。自分の家で死にたい。自分の家から葬式を出してほしい。」と相談を受け、「わかりました。最期までお付き合います」と引き受けました。すぐにケアマネに連絡して、介護保険サービスを準備しました。腰椎の転移があり、まもなく動けなくなるので急がなくてはなりません。ずっと苦しんでいた痛みにやっと麻薬を処方できました。翌日訪問すると、すでにヘルパーさんが入っていて、暖かい部屋で迎えてくれました。お隣の方がおかずを差し入れて、朝は鍵を開けてストーブを点けてくれるそうです。ご近所力は大切な地域のサービスです。そして看護師さんも来てくれることになりました。「訪問看護」の看護師さんは、患者さんの全身ケアをしてくれる在宅療養の要です。

10日後、ミヨさんは立ち上がる事が出来なくなりました。これは大変ショックだったようでした。「何で自分が、おれ何か悪いことでもしたろつか？」と尋ねられました。私は「それは腰の骨がね」と言いかけて気が付きました。違う。そんなことを聞いているのではありません。今たった一人で「死」と向き合うつらさを語っています。この日はしばらくお話を聞きました。歩けなくなつて数日後、すぐに来てくれ

と言われ往診しました。「先生、おれさ、この病氣になつてからいろんな人が来てくれた。とても疲れるけどありがたいと思う。」「考えたんだけど、ずっと一人で暮らしてきて好きなように生きてきたろ。自分勝手にしてきたのにさ、それなのにこんなに大勢の人たちから助けてもらえるとは思っていなかった。だからおれさ、今はみんなにとても感謝している。」「とてもつらい状態の中、周りの人たちへの感謝の言葉を語っていました。翌日には目を開けなくなり、数日後の夜遅く様子を見に行くとすでに息が止まっていました。真夜中でしたが、ケアマネと看護師、隣家の方と親族の方も集まってみんなで見送りました。

終末期の患者さんが辛さや苦しみを乗り越える姿にはいつも感動します。看取りを通じて、人間について理解することができるよう気がしています。

## 自宅で最期まで暮らしたい、私たちを支える「社会保険」

では最後まで自宅で暮らすためには何が必要なのでしょう。私たちの生活を支えるのは「社会保険」です。こには「年金保険」「医療保険」「介護保険」の3つがあります。

訪問診療は「医療保険」で賄われ

ます。18年前に開院して間もなく、誤嚥性肺炎を繰り返していた80歳の男性の家族から、家で看取りたいと相談されました。「入院するたびにおいちゃんには弱っていく。病院にはもう連れていきたくない。」頼まれるまま往診を始め、20日後に亡くなりました。それは家族に囲まれて穏やかな最期でした。家族が手を握り「ありがとう」で看取りました。とても胸を打たれました。

新潟県では在宅で看取りをする医師はまだまだ少数です。でも訪問診療を行う医師が多ければ、安心して自宅で最期を過ごせるでしょうか。西日本では医師数も訪問診療をする医師も多いのですが、在宅の看取り数は多くはありません。在宅の看取りが一番多い県は、実は日本一長寿の長野県です。長野も医師は少ないけれど、「訪問看護」の利用数が全国1位です。在宅の患者さんを支える鍵は「訪問看護」なのです。「最期まで自宅にいたいという気持ち」と「何かあったら心配という気持ち」を支え、全身を看ってくれる訪問看護師は医師よりずっと頼りになる存在です。

## 在宅の鍵は「介護保険」——それが今危ない

この訪問看護の多くは「医療保険」

でなく「介護保険」で賄われています。ところが、この「介護保険」が今危ないのです。当初は一律1割負担で始まったのに、6年前に所得に応じて2／3割と増え、今春にはさらに負担が増えそうでした。また多くの利用者の介護保険の給付がはずされるところでした。介護サービスが始まる前にケアマネが必要なプラン(ケアプラン)を作成しますが、まだサービスを受けていないのでプラン作成は無料です。それも今春からは有料化されそうです。40歳から始まる介護保険料の負担年齢の引き下げや、施設の介護職員数も減らされそうでした。反対運動でいくつかは先送りされたものの、ヘルパーさんが担う「訪問介護」の「介護報酬」が減らされました。今でもヘルパーさんの給与はとても安くて人員が足りません。このままではヘルパーさんの利用が出来なくなります。

一人暮らしでも最期まで自宅で暮らすことはできます。その要になるのは「介護保険」です。最期まで自分の家で暮らすため、命と暮らしを守るためには、なんとしても「介護保険」を守る必要があります。

今日はいらしてくれてどうもありがとうございました。(編集:新倉理恵子)





## Q お盆の時に墓で お経をあげていただくには、 どうしたら良いですか？

お墓の前であげるお経のことを、「墓経」<sup>はかぎょう</sup>といいます。妙光寺では8月1日と11日の2日間、境内で墓経を行います。この日は墓地に複数のお上人さんが待機しています。予約は不要ですので、直接お坊さんにお声がけください。

その際、お手元に戒名を書いたメモなどご用意いただけますと、読経の際の読み上げがスムーズです。両日で受付時間が異なりますので、詳しくは『妙の光』に同封のご案内チラシをご覧ください。混雑する場合はお待ちいただくこともありますので、朝早い時間にお越しいただくのがお勧めです。

13日からのお盆中は他のお上人さんのお手伝いがいただけないことと、住職、院首共に近隣檀徒のお宅に伺うため、墓経はお受けできません。

（その他ご不明なことは、何なりと寺務所にお問い合わせください）

もともと妙光寺のお盆のお墓参りといえば8月1日が恒例でした。遠方のお上人さんは、前日の夜から泊まり込んで、早朝から読経をしてくださいました。まだ車が各家庭に普及していない時代には、檀徒さんも、夜明け前に家を出発してお墓参りをしたと聞いています。日中は大人たちがお寺で法要に参列している間、子どもたちは海水浴をするのが、夏休みの楽しみだったそうです。

今はすっかり浜茶屋（新潟の方言で海の家のこと）も減ってしましましたが、最近ラーメン店やカフェもオープンしました。11日の祝日には境内でお盆市も開催しますので、是非ご家族でお出かけください。



誌上法話 小川良恵

## 現一切色身三昧 —相手に応じた姿で— 『妙音菩薩品第二十四』

元々、妙音菩薩は、私たちの生きる娑婆世界とは別の「仏国土」におられる方でした。  
「仏国土」は1人の仏が教化できる世界のことで、  
妙音菩薩のおられる「仏国土」の名前を浄光莊嚴<sup>じょうこうしょうごん</sup>といいます。

### お釈迦様の光が届く

浄光莊嚴<sup>じょうこうしょうごん</sup>世界には、妙音菩薩が仕える浄華宿王智<sup>じょうけしゅくおうち</sup>という如来がおられました。ある時、お釈迦様が眉間から放たれた光が、ガンジス川の砂にも等しい数の仏国土に届き、この浄光莊嚴世界も照らし出されました。

### 妙音菩薩がお釈迦様のいる 娑婆世界へ

この光明により、妙音菩薩のからだも照らされると、妙音菩薩は浄華宿王智如来に「娑婆世界に行き、お釈迦様を礼拝し、供養がしたいです」と申し出ました。浄華宿王智如来は、「娑婆世界はありとあらゆる仏国土の中でも酷い場所であるが、けして見下したり馬鹿にしたりすることがない

ように」との約束をさせて、その願いを受け入れました。妙音菩薩はまず、不思議な力で、様々な宝石で作られた宝石八万四千もの蓮華を、お釈迦様のお膝元へ届けました。先触れの贈り物のようなものでしょうか。そして、準備を整えた妙音菩薩は、八万四千の菩薩を伴い、娑婆世界を訪れたのです。

### さまざまな姿で教えを説く菩薩

そんな妙音菩薩の目的はただ一つ、衆生を救い導くことです。妙音菩薩は「現一切色身三昧」という神通力を持っています。「現一切色身三昧」とは、「普現色身三昧」ともいいます。仏や菩薩が衆生を救うため、相手の機根つまり能力に応じて姿形を

変えることが出来る力です。布教の相手に合わせて、様々な姿に変わることが出来るのです。前回ご紹介した薬王菩薩もこの神通力を持っていました。

妙音菩薩は名前が表す通り、美しい声を持ち、音楽を得意としています。変身出来る姿は34種類とされ、法華経に登場する菩薩の中でも特に数が多い菩薩です。仏や菩薩、神々、お金持ち、子ども、尼僧、阿修羅の姿にもなれるようです。そして、どれだけ姿が変わろうとも、神通力や智慧が衰えることがないと説かれています。

人々の前に彼らに最も相応しい姿で現れ、美しい声で教えを説いてくださる。まるでアイドルや役者のようですね。



院首夫人・小川なぎささんは、2年8カ月の胃がん闘病の後、2020年10月15日行年61歳で亡くなりました。『妙の光』誌上には人気シリーズ「寺庭から」を連載し、その温かい人柄は多くの檀信徒に慕われてきました。編集部の方のセレクトは、1994年6月第37号から、34歳のなぎささんの言葉です。[文中の「鎌田君」は、当時勤務していた鎌田義明上人です。現在は長岡市法華寺のご住職をしております]

## 寺庭から again

1994年6月復刊第37号



### こころのなかに… 小川なぎさ

年に一度は、衣替えをかねて大掃除をします。子どもが小さい頃はなかなか出来なかったのですが、お寺に住まわせて頂いているので、いざという時には素早く行動を起こしたいし、年とともにたくさんの方に囲まれて暮らすのがうとうとようになってきたのかもしれません。…とは言うものの、小さくなった洋服は瘦せればまた着れるのではないかとしまいこんだり、子どもの絵や工作は捨てられない。あまり変わり映えのしない掃除です。でも今回は、物置に積んである私の結婚する時に持ってきた私物を整理しました。今の暮らしと全くかけ離れたあの頃の暮らしが詰まっている箱です。思い切って、処分することに決めました。

最近たて続けに、友人のお父さんが2人亡くなりました。2人ともまだお若いし、あっという間の出来事でした。お寺という「死」が日常的に感じられる場所にいながら、このことはショックでした。いよいよきたな、という感じでもありました。友人は「これからは残ったお母さんを大事にするわ。お父さんの分まで、お母さんと良い思い出をたくさん作らなくちゃ」と電話の向こうでつぶやいていました。

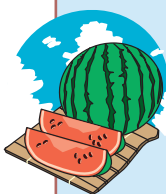
思い出って、どんなものだと思いますか？ 生きている間、思い出の品は自分にとっては、それは大切なものかもしれません。ただ漠然と何かの拍子に「死」というものを考えた時、思い出は物で残すのではなくて、目に見えないナニカで残っていた方が良い気がします。だって人の荷物を捨ててしまうのは、残された人にとっても勇気のいることです。

思い出作りを考えたら、自分の生活スタイルまで変わっていくように思えます。今生きている自分がそれまでの思い出をまるごと引きずって存在している。今日の暮らしは明日には私の中に取り込まれている。とりあえず、不必要な品物はさっぱり捨ててしまおう。身軽になって、今度はできるだけ思い出は心の中に残そう、と念じました。

ついでに弟子の鎌田君と、前の小屋の掃除もしました。古いお札の版下やお膳の道具など、お寺の歴史を物語る道具です。こちらは大切にしておきましょう。昔の文化を偲ばせる素晴らしい財産ですから。



## 角田山妙光寺インフォメーション



### 山側墓地移転工事了

土砂崩落のため一部で立入りも危険になった山側墓地の移転整備工事が、完了しました。所有者のおられる墓石は、皆様のご協力で昨年夏までに移転済みです。残りのいわゆる無縁墓石の改葬は1年間の公示が義務付けられていて、4月10日に完了しました。申出は1件のみでした。5月に1ヶ月かけて無縁墓石の合祀と墓石の撤去作業、整地作業を終えました。今後は、保健所への墓地廃止手続き、法務局への地目変更申請を行い、作業は完了となります。

江戸時代からの墓石も多数あるなか、50年近くかけて無縁墓石全ての関係者



を捜してきました。後半は同時進行してきた350年前からの過去帳整理が完了したことで、墓石に刻まれた戒名から所有者の判明が一気に進みました。妙光寺の歴史の中でも一大事業だったと考えています。

跡地は土砂崩落の危険があるため活用できません。一部を駐車場にして、残りは境内管理での不要物一時保管場所とします。

### イノシシ対策工事途中経過

近年イノシシの出没が頻繁です。冬季や夜にかかるお通夜の際などは特に危険で、人命にも関わるため対策工事に着手しました。山側は農地用の金網を張り、山門前は美観を考慮して住宅用フェンスを設置。駐車場との境になる川沿いに以前からの板塀を移動しました。結果板塀のなくなった庭が広がり、駐車場側からの見栄えが一変しました。

ところが本堂と客殿の裏側の神社との境界が、杉と雑木のヤブで金網も張れません。業者の助言で、急遽すべてを伐採しました。その結果200坪近い更地が広がり、客殿からガラス窓越しに丸見えとなり、予定していた農地用の金網を張るわけにはいなくなりました。日当たりも良いためすぐに雑草が生え



て管理も大変です。経費も枯渇して、整備ができません。取りあえず簡易型電気柵でイノシシを防御しますが、防犯上も不安です。今後の大きな課題として残りました。

### 過去帳整理完了

亡くなった檀徒のお名前と命日、戒名を記録保存したものが『過去帳』です。妙光寺では350年前までの『過去帳』が保存されていますので、古い檀徒はご先祖様の系図をたどることが出来ます。

日付順に一人一人が筆文字で書かれています。これを判読して家族ごとに整理する作業は大変で、コンピューター技術者名和さん、院首の実兄で中国文学者小川陽一さんの協力をいただき5年余りかかりました。お盆前には整理した記録を個別にお届けできる予定です。

### 「後見制度相談体制」が動き出しました。

少子高齢化が進み、老後になって頼れる親族がいなければ急増しています。身元保証人がいなければ借家、施設入所、入院も困難になります。病気や認知症になると財産は個人個人の権利を守ることもできません。そこで「成年後見制度」ができましたが、煩雑でわかりにくい上、悪用されてだまされる事件も増えています。

妙光寺への相談も増えており、この度一般社団法人「生支縁」と提携して、檀信徒の皆様に対応する体制を作りしました。定期的な相談会を開催し、個別相談にも応じます。不安なこと、困っていることなどありましたら、遠慮なく「妙光寺事務」までお問い合わせください。

### 秋の行事

お盆行事も盛りだくさんですが、秋も続きます。昨年に引き続きアコーディオン奏者cobasさんから「ぜひまた妙光寺で演奏したい」とのお申し出があり、10月5日①に計画しました。身延山団体参拝も大型バス利用でなるべく安価に9月28・29日①②実施します。ご予約ください。